KM 県政だより PRESS
熊本県議会議員 Vol.84 令和6年5月号

みぞぐち幸治（こうじ）

みせます　つたえます　つなげます

みぞぐち幸治事務所
〒868-0004 人吉市九日町83 2F
TEL 0966-22-5800
FAX 0966-22-5802
office@k-mizoguchi.com
http://www.k-mizoguchi.com

くまもと新時代、共に未来へ

～新しいまちづくりを、皆さんと一緒に！～

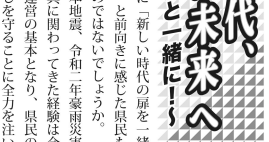
3月11日／人吉市九州一中学校卒業式

蒲島知事の勇退に伴い、十六年ぶりに知事が交代しました。

木村敬知事が選挙戦に掲げて臨んだキャッチフレーズは「くまもと新時代、共に未来へ」県民との十の約束を示しながら、県内各地でその地域の課題を挙げながら県政に臨んでいく意気込みを語る姿を拝見しながら、まさに「新しい時代の扉を一緒に開こう」と前向きに感じた県民も多かったのではないでしょうか。

何より熊本地震、令和二年豪雨災害の復旧復興に関わってきた経験は今後の県政運営の基本となり、県民の命と暮らしを守ることに全力を注いで頂くことになります。私も、議員として、またこれまで共に歩んできた同志として県政発展のためにその役割を果たしていく覚悟です。

そのような中、木村知事が当選後のインタビューで「まずは人吉球磨地域の豪雨災害からの復旧復興に力を入れていきたい」との発言がありましたが、言い換えれば、一復旧復興は進んでいるけれども、まだまだやるべき復興事業、経済を回復する事業に取り組む必要がある」ということです。流域住民の命と暮らしを守る流水型ダムを含めた緑の流域治水を着実に進め、地域の安全度を高めていきながら、まちづくりを進めていく。痛んだ経済を回復させるため、さらには次世代のためにも官民が連携して、新しい生活様式やビジネスモデルを創造していく力強い動きを作り出していく必要があると感じています。引退したSL人吉が人吉に帰ってきます。肥薩線も復活することで関係者間の合意に至りました。明るい話題もあります。前向きに明るくこれからも頑張ります。


4月28日／川辺水系

活動Photoライブラリー

1月1日／元人の集い

1月2日／カラー年賀状

1月26日／ひとよし球磨青年会議所新年賀詞交歓会

2月3日／ひとよしクローバーズ様と交流

4月4日／青井地区地区防災理事者会議

2月24日／人吉ベルクラフトエンデバー様表彰式典

4月1日／人吉市役所辞令交付

4月1日／人吉市役所辞令交付

3月28日／球磨郡市町村長会議「基地式」

一期一会日／ひとよし球場

4月1日／水質汚濁常監視

4月1日／用屋野地区地区防災理事会定期総会

▼編集後記

ベン・ホロウィッツの著書『HARD THINGS』によれば、真のリーダーには現状を把握する洞察力と逆境に対応する行動力の２つの能力が求められます。１６年ぶりに新たな県政の舵取りを担う木村新知事が誕生しました。選挙戦を通じて、地域ごとに異なる課題の解決を訴え、県民の信頼を得る姿勢が印象的でした。木村知事のリーダーシップが熊本県の未来をどう形作るか、その一歩に期待しています。<K.T>

この会報のお問合せは
溝口幸治事務所
〒868-0004 人吉市九日町83 2F
tel 0966-22-5800
fax 0966-22-5802
http://www.k-mizoguchi.com
E-mail:office@k-mizoguchi.com

発行　溝口幸治事務所
記載責任者　富山孝治

X（旧twitter）

みぞぐち幸治後援会 所在地
ACCESS MAP

「緑の流域治水」の推進～新たな流水型ダムの進捗状況～

川辺川ダム建設促進協議会による要望

4月12日に、球磨川流域の12市町村で構成される川辺川ダム建設促進協議会による「川辺川の流水型ダムの早期完成に関する要望」が行われました。

県庁知事応接室に、流域の市町村長、県議会議員が臨席し、蒲島知事、国土交通省九州地方整備局 森戸局長に対し、要望書を手渡しました。

要望内容は「流水型ダムの早期着工、完成に向けた必要な取組みの推進」と「スピード感をもった五木村と相良村の振興」を求めるものです。

要望書を受け取った蒲島知事は「今回の御要望は、流域全体であらゆる対策を講じ、一日も早い球磨川流域の安全・安心を確保して欲しいという流域市町村の切実な願いであると改めて重く受け止めました。今回いただいた御要望に込められた流域市町村の切なる思いについては、必ず木村新知事にしっかり引き継ぎます」と述べました。

環境影響評価準備レポートに対する知事意見提出

環境影響評価法と同等の手続きで進められている川辺川の流水型ダムに係る環境影響評価(環境アセス)について、県は、4月12日に、国が公表している準備レポートに対する知事意見を提出しました。

知事意見は、県環境影響評価審査会、関係市町村、一般の意見や公聴会で述べられた意見を踏まえ取りまとめられたもので、「ダムの構造及び運用は、県が求めた環境に極限まで配慮されたものであり、清流を守ることにつながると評価」されています。

その上で、「今後、緑の流域治水を推進するに当たっては、流域全体として環境をより良くするための環境創出の観点も含めて、あらゆる関係者が協力して取り組んでいく必要がある」など、事業者である国に対して、更なる環境影響の最小化や環境の復元を追求し、流域の皆様への丁寧な説明をすることを求めるものとなっています。

川辺川の流水型ダムのイメージ
(ダム下流水面付近から望む)

※本イメージは、現時点での設計案に基づき作成しており、今後変更の可能性があります。

※以下の動画は、誰でも分かりやすく理解できるよう「緑の流域治水」の取組みがまとめられています。是非、ご覧ください。

動 画 (YouTubeで配信中)

You Tube掲載動画のQRコード

全体統合版	分割版(全体統合版を3パートに分割)		
	①球磨川の地形の特徴	②洪水発生のメカニズム	③緑の流域治水の取組み
【6分57秒】	【2分2秒】	【2分27秒】	【2分28秒】

SL人吉、JR九州が人吉市へ無償譲渡「新しい歴史は人吉市で!」

鉄道ファンなどを魅了してきたSL人吉(蒸気機関車8620形58654号機「通称ハチロクJ」)が、3月23日にラストランを迎え、惜しまれつつ100年を超える歴史に幕を下ろしました。ハチロクは、湯前線(現在のくま川鉄道)に導入されると客貨列車として活躍し、昭和50年3月に廃車となった後は、肥薩線の矢岳駅に保存展示されていました。その後、昭和63年8月に観光列車「SLあそBOY」として復活を果たし、平成21年4月からは「SL人吉」として熊本～人吉間を運行するなど、人吉球磨の皆さんに馴染みが深く、長年にわたり愛されてきました。

令和4年10月に、JR九州から「SL人吉の引退」が発表されたため、関係団体から市に対して、肥薩線のシンボルとして保存・展示の要望が行われました。これを受けて、人吉市長が関係団体と共に、JR九州に対して譲渡や駅の利用に係る要望活動を実施していました。

このような中、SL人吉のラストランの翌日、JR九州の古宮社長から「SL人吉の新しい歴史は人吉で」と人吉市への無償譲渡のサプライズ発表がありました。これを受けて現在、人吉市では、JR九州及び九州運輸局等を交えて、人吉駅周辺への運搬・設置や将来的な動態展示に向けた検討が進められています。

JR肥薩線(八代～人吉間)復旧に向けて「県とJR九州が基本合意」

令和2年7月豪雨で被災したJR肥薩線の早期の復旧に向けて、令和3年度から国、県、JR九州、地元12市町村(八代市、人吉市、芦北町、錦町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、山江村、球磨村、あさぎり町)で協議が続けられてきました。

4月3日に開かれたJR肥薩線検討会議(国、県、JR九州)において、これまでに県が地元12市町村と取りまとめた「JR肥薩線復興方針」に加え、地元住民のマイレール意識(住民自らが地域の鉄道を守り育てていく意識)の醸成にも取り組んでいくこととしました。これを踏まえ、JR九州から鉄道で復旧する方向性について合意すると表明がありました。翌4日には、蒲島知事とJR九州の古宮社長の間で、鉄道復旧に関する基本合意書が締結されました。

今後は、令和6年度末の最終合意に向けて、「清流球磨川」と「百年レイル肥薩線」という2つの「線」を活かした観光振興策とともに、球磨川流域住民のみなさんに、復旧して良かったと感じてもらえるような鉄道にするための具体策の検討が進められていきます。